

春日神社式年造営（御神威がさらに若々しく力強い発揚を願う）

昭和56年11月（1984年）

造営事業 檜皮葺屋根葺替工事 木造社殿修理 神具調度品新調 玉垣取替新設

平成13年10月（2002年）

造営事業 檜皮一層葺替・棟飾改修工事 内陣修復・基礎改修工事

令和2年（2020年） 銅板屋根葺替え

春日神社本殿の様式 春日造 切妻造妻入の建物 前面の庇は片流れで大屋根と一体 千木と鰹木

春日大社本殿 右から第一、二、三、四殿

枚岡神社本殿 本殿は4殿

円成寺 春日堂・白山堂 国宝（鎌倉時代）

積田神社 式年造営 昭和58年（1983年）、平成15年（2003年）

中山神社 式年遷宮 平成元年（1989年）、平成21年（2009年）

宇流富志祢神社

春日の神 境内に鹿

蔵持春日神社 天兒屋根命

積田神社 武甕槌命 天兒屋根命 経津主命 姫大神（南都春日神社奥宮）

中山神社 天兒屋根命

宇流富志祢神社 武甕槌神 経津主神 天兒屋根神 姫大神

春日大社の神 武甕槌命（常陸国鹿島神）経津主命（下総国香取神）

天兒屋根命（河内国平岡神）比売神（天兒屋根命妻）

武甕槌命（常陸国 鹿島神宮）

鹿島神宮から出発の春日の神

春日大社 創設は767年 春日大社に祭られているのが武甕槌命（たけみかづちのみこと）

奈良の地に白鹿に乗ってきたとされることから鹿が神の使いとされています。

香取神宮 経津主命の神 『日本書紀』正伝では

天孫降臨に先立つ葦原中国平定の時、天照大御神の命を受けて武甕槌命と経津主命は出雲に派遣され、

大己貴命（大国主命）と国譲りの交渉を行った。国譲りが成就した。

天兒屋根命 比売御神（ひめみかみ） 枚岡神社の神（元春日）

天兒屋根命は中臣連の祖。藤原氏の祖先 枚岡神社の神

第1殿 天兒屋根命 第2殿 比売御神 第3殿 経津主命 第4殿 武甕槌命

春日の神はなぜ鹿なのか

令和元年の正倉院展に出品は春日の神 鹿神

三国志の魏書・東夷伝にある「倭人」の条 鹿はいない。『其地無牛馬虎豹羊鵠（かささぎ）』

弥生時代の銅鐸には鹿や猪 鹿は稲作と深い関係

縄文人が形作ったものは、その多くは猪、弥生人が描いたものの圧倒的多くは鹿。

『豊後国風土記』速水郡の条

田主が田を荒らすシカを戒め、それを許すことによって田の豊穡が約束される

『播磨国風土記』讃容郡の条

生きたシカを捕らえ、その腹を割き、大地に広がるその血に稲を蒔くと、一夜にして苗が生えてきた。

鹿は田の豊穡をもたらす神、氏族の繁栄をもたらす神の象徴

鹿の角・・・毎年生え替わる 再生の象徴 角は毎年春に自然に落ちる。そのあと4～5月に新しい袋角（ふくろづの）が生えてくる。

春日宮曼荼羅

第一殿 釈迦如来 武甕槌命 第二殿 薬師如来 経津主命

第三殿 地藏菩薩 天兒屋根命 第四殿 十一面観音 比売神

若宮 文殊菩薩 天押雲根命（アマノオシクモネ）天兒屋根命の御子神

春日大社 内の釣り灯籠にも鹿 藤堂高虎の奉納釣灯籠

春日の神の移動ルート

春日明神の馬塚 八幡地区

神柿 立木神社 積田神社

鹿は農耕の神

斎種（ユダネ）：豊穡を祈って斎（い）み清めた穀物の種。主として稲

万葉集 3603 青楊（あおやぎ）の枝伐（き）り下ろしゆ種（だね）蒔きゆゆしき君に恋ひわたるかも

万葉集 1110 ゆ種（だね）蒔くあらきの小田を求めむと足結（あゆい）は濡れぬこの川の瀬に

鹿の神としての存在

中臣壽詞 古代日本での天皇の即位式および大嘗祭において、中臣氏によって奏上

天孫が高天原から降り、そばに仕えていた中臣氏の遠祖の天兒屋根命とその子、天押雲根命であった。

あるとき高天原の皇祖神の命が託宣（たくせん）が下された。「皇孫の尊（スメミマの命）にさし上げる御

膳（ミケ）つ水は、うつし国の水に 天つ水を加へて奉らむと申せ』と 事教へ給ひしに依りて

このように中臣氏の祖先の天兒屋根命とその子、天押雲根命が天皇の即位に大いにかかわる。

そして鹿という存在が「神の使い」として明示されるようになるのが平安時代からでした。